

○議長 辻本 一夫君

まず10番、川上議員の一般質問を許します。川上議員。

○議員 10番 川上 誠一君

10番、日本共産党の川上です。一般質問を行います。

第6次芦屋町総合振興計画におけるSDGs、持続可能な開発目標について伺います。

近年、世界各地では地球温暖化が原因とみられる猛暑や豪雨、豪雪などの異常気象が多発しており、我が国においてもこれまでに経験したことのない豪雨や台風などにより、甚大な被害が拡大しています。全ての地方自治体が2030年までの地球温暖化推進計画を策定し、公共施設・公共事業・自治体業務でどれだけCO<sub>2</sub>を削減できるか、住民と共に実践の先頭に立つことが求められています。

また、令和3年度からスタートする第6次芦屋町総合振興計画では省資源・低炭素化に向けた取組を推進し、環境に優しい町を目指しています。各施策分野にSDGsの目指す17の目標を連動させ、総合振興計画・SDGsを一体的に推進し、芦屋町の将来像の実現とともに「人を育み 未来につなぐ あしやまち」、持続可能な地域づくりを目指していくとしています。なお、2015年の国連において採択されたSDGsを全ての国が責任を持って実行することが求められています。SDGsの目標は発展途上国のみならず、先進国自身も取り組む普遍的なものです。

SDGsの目標は分野ごと17項目にそれぞれ分かれています。12月議会では目標の13「気候変動について具体的な対策を」について質問しました。今回は第1に、目標5の「ジェンダー平等を実現しよう」のジェンダーの主流化の推進について伺います。

要旨、意思決定の場に女性を増やし、あらゆる政策にジェンダーの視点を貫くジェンダー主流化を進めるべきではないか、これについて伺います。

○議長 辻本 一夫君

執行部の答弁を求めます。生涯学習課長。

○生涯学習課長 本石 美香君

まず、ジェンダーとは生物学的な性とは違い、社会的・文化的に創られる性のこと、男性と女性の役割の違いによって形成された性別のことです。ジェンダー主流化とは1995年、第4回国連世界女性会議の北京宣言で概念が明記されたことがきっかけに広まったもので、政策決定過程やあらゆるレベルの政策及びシステムにおいてジェンダー平等、一人一人の人間が性別にかかわらず平等に責任や権利や機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めるようにするための政策理念で、男女平等施策を進める上で基本となっている考え方とされています。

芦屋町では第2次芦屋町男女共同参画推進プランで、施策の1つに「政策・方針決定過程への女性の参画の促進」を挙げており、計画に基づき各種審議会等委員への女性の参画促進などの各

令和4年第1回定例会（川上誠一議員一般質問）

施策に取り組み、ジェンダー主流化を推進しております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

川上議員。

○議員 10番 川上 誠一君

今、課長が述べられたとおり、ジェンダーの主流化というのはですね、あらゆる分野で計画、分析、政策などをジェンダーの視点で捉え直し、全ての人の人権を支える仕組みを根底からつくり直していくということです。

それで内閣府のですね、発行している月刊誌「共同参画」というのがあるんですけど、2022年の1月号の表紙が「ベルサイユのばら」になっています。オスカルが表紙になってるんですが、何で表紙になっているのかというと、表題に「フランス革命の次は日本のジェンダー革命だ！」と解説してあるので、ベルばらが表紙になっているとのこと。作者は池田理代子さんと、男女共同参画局の林局長との対談、インタビューが掲載されています。

その対談の中で、池田さんがベルばら連載時のことを話す中で『同じ雑誌で同じくらいの人気があっても、女性は男性の半分しか原稿料をもらえない。おかしくないですか。』と聞いたら『お金に汚い女だ。女性はやがて結婚して男に食べさせてもらうのだから、男が倍もらうのは当然だ。』また、こうも言われたそうです。「私、家を建てましたが『女のくせに家を建てやがって。』とも言われました。」これはね、内閣府の月刊誌にこういったことが載ってるわけです。50年前ですけど、あからさまなですね、男女格差の存在を示しています。その理由として、女性は男性よりも仕事上の能力が劣る、妊娠・出産・子育てをする女性は男性に扶養される従属する存在であるという考えです。こういったことがですね、現在の男女の賃金格差や女性の参画にも反映しているというふうに私は思います。

お配りの資料のですね、2枚目を御覧ください。これも内閣府の資料なんですけど、日本のジェンダーギャップ指数が153か国中120位と先進国の中でも異常ですが、順位は相対指数ですが、この指数がどのように改善されているかというのが問題です。グラフはG7各国のジェンダーギャップ指数の比較を表すグラフです。ジェンダーギャップがどのように改善しているのか、見れば分かるようにですね、ほかの国は努力して改善されているのに日本は改善がありません。男女共同参画とか女性の活躍とか、こういったスローガンを掲げても日本はこのジェンダーについては無関心であるというのが分かると思います。

こんなジェンダー後進国の日本ですが、世界的なジェンダー平等推進の流れと国内の世論と運動により、男女共同参画社会基本法がつけられました。基本法には男女共同参画基本計画の策定を定め、都道府県に男女共同参画の策定を義務づけ、市町村には努力を課しています。

令和4年第1回定例会（川上誠一議員一般質問）

そこで伺いますが、芦屋町での男女共同参画の計画の策定はどうなっているのか、審議会の女性の比率はどうなっているのかを伺います。

○議長 辻本 一夫君

生涯学習課長。

○生涯学習課長 本石 美香君

芦屋町では現在、平成25年度から10年間を策定期間とし、平成29年度に中間見直しを行った第2次芦屋町男女共同参画推進プランにより、現在、男女共同参画に関する各種施策を推進しております。

目標としては、1. 男女共同参画の意識づくり、2. 男女が互いに認め合う社会環境づくり、3. 誰もが安心して暮らせる生活への支援の3つを掲げるとともに計画推進のための行政における組織づくりなども掲げ、60の具体的施策に対する事務事業を推進しています。なお、現在の計画は計画終了年度が令和4年度となっております。このため、第3次の計画策定に向けて現在住民アンケートを実施し、集計中です。次期計画の策定においては現行計画における評価・課題を反映させるとともに、アンケート結果や現行計画の策定後に新たに発生した課題や法律・条例など住民ニーズ及び社会情勢の変化・動向を反映させた計画づくりを行ってまいります。

また2点目の御質問の、芦屋町の各種審議会の男女比率はどのような状況かということですが、毎年、福岡県の調査において公表されている芦屋町の審議会等における女性委員の登用状況を基に、直近3年間の状況をお答えいたします。それぞれ4月1日現在で女性委員の比率は、平成31年（令和元年）は審議会数31、委員総数325人中女性が66人で20.3%、令和2年は審議会数31、委員総数348人中女性が77人で22.1%、令和3年は審議会等の数31、委員総数325人中女性が73人で22.5%となっております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

川上議員。

○議員 10番 川上 誠一君

女性の審議会への参画率が20%ちょっとということですが、政府の基本計画では「2020年までに、指導的な地位に女性が占める割合を少なくとも30%」というふうにしていましたが、2020年までには到底届かなくてですね、国としてもですね「2030年までには30%」というふうに後退しています。ちなみに国際的に見ればですね、国際社会の2030年までにはですね、50%ということから見れば、大きく外れております。

それではですね、次の質問です。

町職員の半数以上は女性ですが、政府の管理職への登用目標は30%ですが、芦屋町職員の女

令和4年第1回定例会（川上誠一議員一般質問）

性幹部登用は何%になっているのかを伺います。

○議長 辻本 一夫君

総務課長。

○総務課長 松尾 徳昭君

役場の管理職の登用の比率についてお答えいたします。

管理職、課長の女性登用につきましては過去3年間の状況でお答えいたします。全て4月1日での率となります。平成31年と令和2年は14.3%、令和3年は15.8%です。係長職の女性登用につきましては、平成31年と令和2年は15%、令和3年は14.3%です。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

川上議員。

○議員 10番 川上 誠一君

これは10%半ばというところですが、先ほども言ったように政府のですね、管理職への登用目標は30%ですので、半分しか到達していないという状況です。

それではですね、これを改善するために芦屋町の登用の計画目標はどのくらい持っているのか、これについて伺います。

○議長 辻本 一夫君

総務課長。

○総務課長 松尾 徳昭君

芦屋町特定事業主行動計画において女性の役職者、課長及び係長の登用率を令和7年度までに20%以上とすることを目標として、今やっております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

川上議員。

○議員 10番 川上 誠一君

早期にですね、やっぱり20%を達成し、そして国の目標でもある30%をですね、目指して、しっかり努力していただきたいと思います。

そういった点でですね、最後に町長に伺いますが、町長はこの女性登用についてどのように考えるのかを伺います。

○議長 辻本 一夫君

町長。

○町長 波多野茂丸君

お答えさせていただきます。

まず審議会での登用ということでございますが、議員ももう芦屋町の状況は御存じであろうと思いますが、それぞれ設置条例及び規則等の規定によって関係機関や各種の地域団体から委員を推薦していただく方法が多いわけでございます。各種審議会の規定の中で男女比率を定めるべきではとの声もありますが、これは行政が指名するのではなく、各団体のほうから推薦したい人材が男性の場合や、そして組織によっては男性しかいない場合もありますので難しいと考えられます。

そのような状況下でも審議会の女性委員の登用を積極的に進めるため、男女共同参画担当課や各審議会所管課で女性委員の登用を常に意識するとともに、いろいろ創意工夫し積極的に取り組み、少しずつ成果は上がっていると感じております。今後も積極的に女性登用について推し進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

**○議長 辻本 一夫君**

川上議員。

**○議員 10番 川上 誠一君**

ぜひですね、20%～30%をですね、早期に達成していただきたいと思います。

次にですね、目標14の海洋資源から、マイクロプラスチックごみについて伺います。

コロナ禍において経済活動にも影響が出ているが、住民ボランティア活動なども制限され、地域や河川、海岸での清掃活動も自粛されている。海岸には河川ごみやペットボトル、ビニール、発泡スチロールが漂着しており、特に発泡スチロール容器が削られマイクロプラスチックとなり、海岸の砂に混入する頻度が高くなっているが、この対策をどう考えているのかを伺います。

**○議長 辻本 一夫君**

環境住宅課長。

**○環境住宅課長 小田 武文君**

それではマイクロプラスチックについて回答させていただきますが、環境問題に関心をお持ちの小学生や中学生の皆さんが、後日この録画放送を御覧になることもあるかと思っておりますので、この場での表現につきましては少し砕いた表現で御説明をさせていただきます。あしからず御了承ください。

私たちの生活はプラスチック製品であふれております。食品や飲料などの容器包装、レジ袋、使い捨てのストローなどがあります。ほかにも、たばこのフィルター、文房具や日用品、家具、家電、自動車など、ほとんどの製品にプラスチックが使用されています。これらの製品は、その役目を終えるとプラスチックごみとして処分されることとなりますが、適切に処分されなかったプ

プラスチックごみは、いずれ海へと流れ出て、海底に沈んだり海洋中に漂流したり、海岸に漂着などします。

プラスチック製品は安くて加工しやすく清潔であるため広く社会に普及しました。現在では途上国を含めた生活スタイルの変革に伴い、使い捨て製品が支持され普及しております。そのため、プラスチック製品の生産量及び廃棄量はさらに増え続けており、2050年には海洋中の、海の中のプラスチックの量が魚の量を上回ると言われております。海へ流れ出たプラスチックごみや浜に打ち上げられたプラスチックごみは消えることはなく、波や紫外線などの刺激により劣化が進み、微細変化していきます。より小さなかけらになっていくということでございます。

微細変化したプラスチックごみは、近年世界的な問題となっているマイクロプラスチックとして、さらに大きな影響を及ぼすことが心配されております。このマイクロプラスチックとは、微細化するなどして大きさが5ミリメートル以下になったプラスチックのかけらを言います。世界中の海で見つかっておりまして、北極や南極でも観測が報告されております。5ミリメートル以下になっても自然環境の中ではほとんど分解されず、長期間にわたり残り続けるため餌と間違えて食べるなどにより、海洋生物の体内や動物プランクトンからも見つかっております。一説では、1つのレジ袋が最終的には1万7,000個ものマイクロプラスチックになるとも言われております。マイクロプラスチックになってしまうと回収は大変困難ですが、マイクロプラスチックになる前であれば回収は可能です。落ちているレジ袋1枚でも、これを拾うことで大量のマイクロプラスチックを回収したことと同じ効果が上げられます。

ここ十数年の間に一気に深刻化したマイクロプラスチック問題ですが、改善にはまだまだ長い時間がかかってしまいそうです。専門家や政府もあらゆる対策を練りながら解決への道を探っておりますが、とにかく私たちにできることは「ごみをポイ捨てしないこと」、「ごみそのものを減らすこと」、「落ちているごみを拾うこと」、この3点ではないでしょうか。

1つ目の「ごみをポイ捨てしないこと」ですが、ごみは必ずごみ箱に捨て、外出中に出たごみはポイ捨てをせずに家まで持ち帰ることで。2つ目の「ごみそのものを減らすこと」ですが、日頃からマイバッグやマイボトルなど、繰り返し使えてごみを減らせるものを使うことです。3つ目の「落ちているごみを拾うこと」ですが、山や川、町なかなどに落ちているごみは風や雨によって海岸に流れていきます。落ちているごみを見つけたら拾ってごみ箱へ捨てること、併せて地域の清掃活動に積極的に参加して、みんなで美しい海岸にしていくことです。

このようにマイクロプラスチックに対する対策としては、まず私たちの行動を見直すところから始めることが重要と考えておりますので、引き続き啓発に努めてまいります。併せて、コロナが落ち着いたら芦屋町環境基本計画に基づき、従前のような——これまでのようなラブアース・クリーンアップや、町内一斉清掃といった清掃事業につきましても実施していきたいと考え

ております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

川上議員。

○議員 10番 川上 誠一君

御手元にですね、資料を配付しておりますが、1番～4番まではですね、これは柏原海岸の写真です。で、写真の中に白いものが見えると思いますけど、これは発泡スチロールがですね、マイクロプラスチック化したものです。実際はもっとこうあるんですけど、写真ではこのぐらいしか写っていませんが。発泡スチロールはやっぱり柔らかくて、簡単にですね、マイクロプラスチックになっていくということで、こんな状況で海岸に打ち上げられていますし、海洋を漂っています。4番目はですね、発泡スチロールだけではなくてペットボトルが、これは原形がなくなってしまって小さいものになって、これは写真よりもですね、実際はもっと細かいものがいっぱいあるわけなんですけど、こういったふうになって砂の中にですね、混入しているという状況です。

5番目、6番目はですね、芦屋橋の根元の水辺の里のところですよ。6番が下流方ですね。水辺の里ですけど、ここにもですね、今回やっぱり相当のペットボトルとかプラスチックごみが打ち上げられています。5番は芦屋橋の上流方のヨットハーバー前なんですけど、この6番のほうはですね、私も行ってあまりだったんで、プラスチックごみについて回収してきれいにしましたし、その後ですね、老人会の方なんかは今度はヨシとかこういった部分もですね、回収してですね、現在は水辺の里はきれいになっていますが、ヨットハーバーのほうはですね、このような状態がまだ続いています。

こういったペットボトルなんですけど、こういったふうに原形として残ってるんですけど、ただ、これがですね、ペットボトルなどは時間が経過すると紫外線や風雨にさらされて劣化し、もろくなるということです。私も古いものを触ると、手で触るだけでも粉々になってしまうようなね、そんな状況なんで、ペットボトル自体もですね、同じ原形をとどめてないということです。こういったマイクロプラスチックを小さい小魚、イワシ等が食べて、それをタイやヒラメ、ブリ、サワラなどが食べ、それを人間が食べるという食物連鎖があり、最終的には人間の健康や海の環境や生態系の破壊を引き起こしているという、こういった状況です。

ですから、芦屋町単独でこれは解決できる問題ではないんですけど、やはり一つ一つの町が取り組んでいけば大きな大河となってですね、このマイクロプラスチックを減らしていくことにもつながっていくと思いますので、芦屋町としてもですね、ぜひこの問題についてしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

町長は常々ですね「芦屋は海が1番。」と言っていますが、このマイクロプラスチックの問題に

令和4年第1回定例会（川上誠一議員一般質問）

ついてどう考えるか、時間がありませんので一言でお願いいたします。

○議長 辻本 一夫君

町長。

○町長 波多野茂丸君

ちょっといろいろ考えておったんですが、もう時間がないということで、とにかく課長も議員も言われたようにですね、これは災害と一緒にですね、災害でよく言われる自助・共助・公助、これ一人一人がそれを自覚して考えてやる、このことが1番大事であろうかと思っております。小さいときから、小学生から中学生からその辺の意識を持たせるということが1番大事なのではないかと思っております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

川上議員。

○議員 10番 川上 誠一君

ありがとうございます。

それでは次にですね、目標4の歴史教育の目標に関連してですね、芦屋町の中世の歴史について伺います。

現在、NHKで放映されている大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の主演となっている北条義時は1185年、源範頼率いる平家追討軍に属して芦屋海岸に上陸し、西浜・白浜・幸町一帯で平家方の豪族である原田種直との合戦に勝利し、九州の上陸を果たして武功を立てました。この戦いを芦屋浦の戦いとしてですね、歴史に残っていますが、この後に北条義時は鎌倉幕府の執権となり、北条氏の執権政治が確立していきます。山鹿秀遠を含めた芦屋町の中世の歴史に、やはりもっとですね、光を当てていいと思いますが、お考えを伺います。

○議長 辻本 一夫君

生涯学習課長。

○生涯学習課長 本石 美香君

今年のNHK大河ドラマは、鎌倉幕府二代執権北条義時を主人公に平安時代末期から鎌倉時代を舞台にしたもので、平安末期に各地で起こった内乱、源平合戦が現在放送されているところです。この源平合戦におきまして、川上議員もおっしゃられましたが芦屋は重要な場所であり、また芦屋の武将が活躍をした戦でもあります。

源氏軍が九州の平家方の豪族らとの戦いに勝利し、九州上陸を果たしたとされる戦が芦屋浦の合戦と言われ、若き日の北条義時がこの戦に参戦していたと言われております。また、都落ちした平家一門を芦屋山鹿の地に迎え入れ、最後まで平家方に忠義を尽くした武将山鹿秀遠は、壇ノ

令和4年第1回定例会（川上誠一議員一般質問）

浦の合戦で源義経を苦しめるなど源平合戦において重要な役割を果たした郷土の武将で、平家物語にも登場します。

このように日本の歴史上、古代から中世へ、貴族の時代から武家の時代への転換期に起こった源氏と平家の戦の世で、そのとき、まさに芦屋で時代がつくられたのだということを地域の皆様にご存知いただき、関心を持ち誇りに思ってもらえればと考え、大河ドラマの放送開始に合わせ、町では号外チラシを作成し、昨年12月末に広報あしやと同時配布を行いました。同様のポスターも各地に掲出してあります。また、今年の広報あしや2月号から「芦屋歴史紀行」コーナーで「その時、芦屋で時代がつくられた 決戦 源平合戦」を掲載しております。

そして、来年度になります今年4月末より、芦屋町歴史民俗資料館にて特別展「源平合戦～モノノフの時代」を開催予定です。芦屋浦の戦いや山鹿秀遠をはじめ古代から中世への政局の動きを追い、中世における芦屋津の重要性をひもとく資料を展示してまいります。期間中には学芸員による展示解説、ギャラリートークも実施します。ぜひ芦屋の中世の歴史を知り、学んでいただければと思います。なお、特別展の詳細等は今後、広報あしややホームページ等でお伝えしてまいります。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

川上議員。

○議員 10番 川上 誠一君

芦屋町の中世の歴史、特に平安時代後期には先ほど言った源範頼や北条義時と戦った芦屋浦の戦いや、山鹿秀遠が参戦した壇ノ浦の戦いに大きく関与しています。そして、その後南北朝時代には芦屋釜の鑄造が始まり、その芸術性、技術力に対する評価は高いものがあります。こういったですね、中世の歴史にもっとスポットを当て、多く知っていただいてシビックプライドをもですね、養っていただきたいというふうに思います。特に今、大河ドラマやってますけど、大河ドラマの中で最後にですね、やっぱり関連する土地の紹介なんかありますんでね、ぜひ頑張ってください、そういったものででも紹介されるようにしていただきたいというふうに思います。

私はこれをして思ったんですけど、芦屋浦の戦いでなぜ原田氏がですね、戦って平家軍として負けたのか、山鹿秀遠が山鹿城において、近くなのに何で山鹿秀遠は出て行かなかったかなというふうに思ってますね、いろいろこう調べたんですけど、このとき山鹿秀遠が彦島で最後の決戦をするのに、やっぱり平家軍が結集して大きな陣をつくってたんです。そのとき山鹿秀遠は彦島のほうに行ってね、山鹿城にはおらなかったというんで、それで芦屋浦の合戦には参戦してなかったということなんでですね。

こういったですね、いろんな中世の問題をこう調べていくとですね、ロマンもありですね、本

令和4年第1回定例会（川上誠一議員一般質問）

当に芦屋町としての町民としての誇りとかそういったものもできますので、ぜひですね、こういったところにも光を当てて、今後ですね、社会教育にも頑張っていたきたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長 辻本 一夫君

以上で、川上議員の一般質問は終わりました。